

第3学年 図画工作科学学習指導案

1 題材名

「大好き！生き物！」（絵・版に表す）

2 指導観

(1) こんな児童だから

本学級の児童は、2年生で簡単な紙版画の制作を経験し、また、一学期には、題材「大好き自分の線と色」で、自分の好きな色を選んだり、さまざまな線を描いたりして、絵の具の楽しさを味わってきている。また、題材「ガラスのびんのへんしん」では、紙粘土を使って、びんにかざりをつける経験をしてきている。

このような児童にとって、自分の表したい生き物を、自分の思いを大切にしながら、紙以外の材料も使って版で表現していくことは未体験であり、材料の特徴を生かしながら、自分の思いを表現していくことで表現の幅を広げていくことができると考えられる。

(2) こんな題材で

本題材は、材料の特徴を生かして版をつくり、表したい自分の思いを効果的に表すことをねらいとしている。

児童の生活経験や生き物の写真から、自分の好きな生き物について、なぜ好きなのか、どこが心に残っているのかなど、表したい思いを強くもたせることで、表現に生かすことができると考える。

また、画用紙以外の材料を用いて表現する本題材は、画用紙とは違った表現が期待でき、表現の幅を広げることができると考えられる。さらに、表現の途中で自分の作品を振り返ったり、友達のよさを見付けたりしながら、材料の特徴を生かして版をつくることで、自分の思いに合った表現の工夫を引き出すことのできる有意義な題材であるといえる。

本題材はA表現の(2)ウと特に関連が深く、表したい思いに合わせて、材料の特徴を生かして使うとともに、その表し方を考えて表すことができるものである。

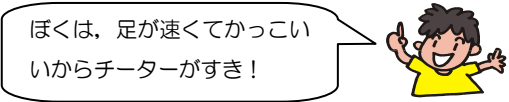
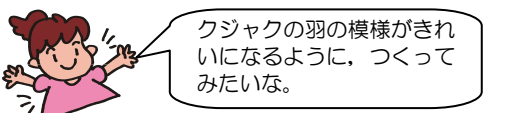
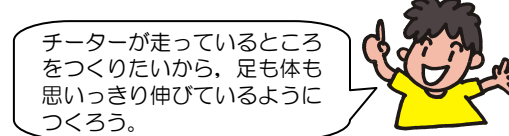
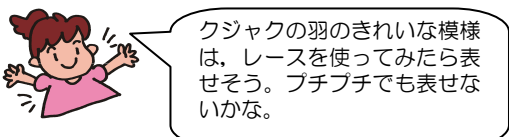
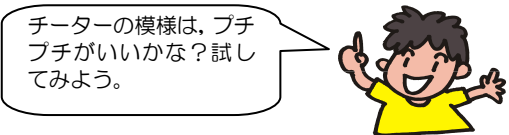
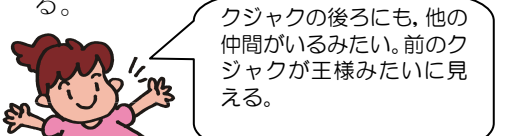
(3) このように指導して

- 発想・構想の段階においては、題材と出合わせる場面で、児童自身の生活体験や、生き生きとした生き物の写真から、自分の表したい好きな生き物を決めさせる。その際、絵や言葉などで自分の好きな生き物について、なぜ好きなのか、どこが心に残っているのか、明確にさせることで、表したい思いを強くもって表現していくことができると考える。
- 表現の段階においては、活動の初めに少人数のグループでの振り返り時間を設定することで、児童が自分のめあてを明確にし、活動に見通しをもち、自信をもって取り組むことができるようにする。最初は紙だけで版をつくり、その後、好きな生き物を表すために効果的な材料を使うということに目を向けさせる。材料を選ぶ際には、試しのコーナーを設定し、児童が自分の思いを確かめながら表現できるようにする。活動の終わりには、自分の思いが表現できているか、自分のめあてに対する振り返りの時間を設定する。
- 鑑賞の段階においては、自分の思いを表現するための材料とその使い方に視点をあて、互いの作品のよさや面白さを見付ける活動を行わせる。作品のよさや面白さを共有し、自分の作品を友達に認められる体験は、自己肯定感にもつながり、これからの表現活動に生かしていくことができると考える。

3 題材目標

- 版をつくったり、刷ったりする活動に興味をもち、進んで取り組もうとしている。
(造形への関心・意欲・態度)
- 表すものを想像し、使う材料やいろいろな表し方を考えている。
(発想や構想の能力)
- 材料の特徴を生かして版をつくり、刷り方を工夫して表している。
(創造的な技能)
- 友達と作品を見せ合い、形の組み合わせや版のよさなどをとらえている。
(鑑賞の能力)

4 学習計画 (全7時間)

過程 配時	学習活動	手だて (※) ふりかえり活動に関する手だて (◆)	児童の姿
発想 構想 ①	1 いろいろな生き物の写真を見て、表したい好きな生き物について、図工ノートに絵や言葉でかく。	※ 生活経験を想起させたり、生き物の写真を見せたりして、生き物の形や動き、毛並みや模様などに注目させる。 ◆ 自分の思いを基に表現していけるように、自分の表したい生き物を選んだ理由や何をしているところか、図工ノートに詳しく絵と言葉でかかせる。	◎ 生き物の写真を見て、表したい好きな生き物を決め、その生き物が何をしているところを表したいのか、どんな感じにしたいのかを決めている。  
表現 ⑤ 本時 4/7	2 紙だけを使って版をつくる。 ○ 紙だけを使って、表したい好きな生き物の動きを表す。 ・ はさみで ・ ちぎって ・ 重ねて貼って 3 もっと自分の思いを表すために形や材料を工夫する。 ○ 表したい好きな生き物をもっとよく表すために、どの部分にどんな材料を使うか考える。 ○ 使ってみたい材料を試して、自分の版に生かす。 4 構図を工夫しながら表す。 ○ 重なりや前後などの配置、並べ方や向きなどを試して、画面構成を工夫する。	◆ 自分の表したい生き物が何をしているところか振り返り、動きに注目して形をつくらせる。 ※ はさみで切ったときと、手でちぎったときの感じの違いに気付かせる。 ※ 生き物の動きをよく表せるように、部品を貼る前に机上で動かすようにさせる。 ※ 材料を使って刷ったものの資料を見せ、感じの違いに気付かせる。 ※ 自分の表したいことを表すために、どんな材料を使うといいか、試しの場で試して考えさせる。 ◆ 前時までの作品と図工ノートを基に、作品づくりでがんばってきたことや、工夫してきたことを交流させ、自分のめあてを明確にさせる。 ※ 重なりや前後、版の並べ方、数、大小、向きを工夫し、それぞれの表現の違いや面白さに気付かせる。 ◆ 表したい生き物の動きや周りの様子を思い通りに表すにはどうしたらよいか、試しながら交流させる。	◎ 前時の図工ノートをもとに、どんな生き物が何をしているところを表したいのか確かめ、動きに気を付けて表したい形の版をつくっている。  ◎ 自分の表したい思いが、何の材料を使うと表せそうか試したり、形を作り直したりしている。   ◎ 版を動かしたり、新たにつくったりして、いろいろな画面構成を試している。 
鑑賞 ①	5 互いの作品を鑑賞し、表現のよさや面白さを伝え合う。 ○ 班で交流する。 ○ 鑑賞の観点をもって、図工ノートに振り返る。	※ 刷り上がった作品を展示し、班で交流させる。 ◆ 自分や友達が表した作品から、思いを表す材料とその使い方に視点を置き、作品のよさや面白さを見付けるようにさせる。	◎ 鑑賞の観点をもって、友達作品のよさや面白さを見付けている。

5 本時の指導について

(1) 本時の目標

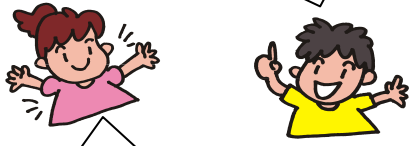
- 自分の表したい思いに合うように、材料を加えたり、版をつくったりすることができる。
(創造的な技能)

(2) 本時指導の重点

本時は、初めに少人数グループで前時までの工夫を交流することで、自分のめあてを明確にさせたり、本時の活動の見通しをもたせたりする。そして、画用紙以外の材料を使って、自分の思いに合う表し方を考え、実際に表現させる。そのために、以下のことを行う。

- 少人数グループで交流することで自分のめあてをはっきりさせるふりかえり活動の設定をする。
- 自分の思いに合う材料を選ぶことができる活動の場(試しコーナー、ヒントコーナー)の設定をする。

(3) 本時の展開

学習活動	手だて(※) ふりかえり活動に関する手だて(◆)	児童の姿
1 本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 自分の好きな生き物がもっとすてきになるように、材料を工夫して、版をつくろう。 </div>		
2 自分のめあてをもつ。 3 白表紙でつくった版に、自分の思いに合わせて選んだ材料を加え、版をつくる。 ○ 自分の思いに合わせて材料を選び、使い方を工夫しながら版をつくる。 ○ お試しコーナーやヒントコーナーを基にして、自分の思いの表し方について考える。	◆ めあてに沿って、前時までの活動の工夫と本時の材料の工夫についてグループで話し合う。 ※ 資料を参考に、使われている材料とその感じについて気付かせる。 ※ 材料を試すコーナーを設定し、小さな画用紙に試しながら自分の思いに合うか確かめた上で材料を決めることができるようにする。 ※ 材料に合わせた接着の仕方について、掲示資料などで個別に指導する。 ※ 机間指導をしながら、一人一人が表したいことを表すために考えている工夫を賞賛する言葉かけをする。	◎ 自分のめあてをもち、活動の見通しをもつことができている。 ◎ 自分の思いに合わせて、材料を試しながら、版をつくっている。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> ヒョウのかっこいい体の模様は、プチプチを使ったら表せそうだな。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> クジャクの羽のきれいな模様は、レースを使ってみたら表せそう。プチプチでも表せるかな。試してみよう。 </div>
4 本時の学習の振り返りをし、次時の学習の見通しをもつ。 (1) 本時活動を振り返り、図工ノートに書く。 (2) 次時の学習の見通しをもつ。	◆ 自分のめあてが達成できたかを振り返らせることで、次時の活動の見通しをもたせる。 ※ 次時の予告をし、見通しと意欲をもたせる。	◎ 自分の作品を見て、工夫したところをノートに書いている。 ◎ 自分のめあてをもとに活動を振り返り、次時の活動の見通しをもっている。